

福島浜通り地域等15市町村の交流人口に向けた アクションプラン（概要版）

2022年5月31日

経済産業省・福島県

アクションプランの背景とアクションの方向性

I. 現状と課題

1. **定住人口と交流人口の減少**
2. 定住人口の減少がもたらす**地元の産業人材の不足**
3. 定住人口と交流人口の減少がもたらす**地元での需要不足**

II. 交流人口拡大に取り組む意義

1. 目的：将来**移住に繋がる裾野拡大**と**地域での需要拡大**
2. 「今」の意義：復興の進展とアフターコロナの往来需要
3. 「行政」による意義：行政と民間は両輪。行政は民間の取組を支える環境づくり

III. 検討の方向性

(1) 4つの視点

1. 将来像ではなく**具体の実行計画**
2. 市町村と国、県、関係機関が**共に創る**
3. **「この地ならではの」具体化を通じた競争力の強化**
4. **民間や専門家との実効的な連携**

IV. アクション具体化の軸に据える「この地ならではの」基本理念

- 複合災害により、一度は伝統やコミュニティが失われたこの地域には、
- 前例のない困難（複合災害からの復興、加速した地域課題）への『**挑戦**』がある。
 - 困難に立ち向かい、未来を切り拓こうとする、憧れを抱きさえる魅力ある『**人**』がいる。
 - 困難に挑戦する人に対して、新しい挑戦を受け入れ、応援してくれる『**風土**』がある。
 - これまでの挑戦の軌跡と一步一步再生する姿、これらが織りなす心が震える『**情景**』がある。

これらを踏まえてアクションを具体化、実行する

(2) 3つの検討の軸

V. 市町村間の連携（ヨコ）

- 課題
1. 市町村間連携には相応の**企画力・調整力・工数**が必要
 2. 連携時の役割分担等の**仕組みの不足**

- アクションの方向性
- 市町村の枠を超えた**広域コンテンツの創出**
- **連携テーマ**と各テーマの深掘り方向性の具体化
 - **推進体制**の具体化（専門家の参画、民間活力の活用）

VI. 市町村独自の取組（タテ）

- 課題
1. **マンパワーの不足**
 2. 立案・実行する**ノウハウ不足**

- アクションの方向性
- 各市町村で**担い手となる者の確保**
- 担い手候補がこの地で取り組む**きっかけ作り**
- 各市町村における本分野の施策作りの**ノウハウ向上**
- 専門家と市町村が**実効的に連携する仕組み作り**

VII. 市町村共通の基盤（デジタル）

- 現状
- デジタル化を始めとした技術革新
→スマートフォンによるSNSやポータルサイトを使った情報収集
→人流データの把握・分析と、最適コンテンツ情報の提供

- 課題
1. **マンパワーの不足**
 2. 立案・実行する**ノウハウ不足**

- アクションの方向性
- 行政におけるデジタル技術活用**スキルの向上**
- デジタルトレーニング**研修会**
 - **専門家による伴走支援**の仕組み作り
- 市町村横断の**デジタル基盤の構築**
- **データ活用基盤の構築**（データ収集・蓄積・分析）
 - **一元的なデジタルプロモーション**

アクションの全体像

V. 市町村間の連携（ヨコ）のアクション

- 広域コンテンツ作りにおける市町村の役割：①方針の主導的な設定（どういったテーマか、どんな人を呼び込みたいかなど）や、②作りこみや実行段階での民間への側面支援（地元事業者等への参画呼びかけ、地元関係者との合意形成支援、情報発信など）
- 専門家・民間との連携：「我がゴト」として双方向に継続・建設的に議論を重ね、互いの思いや意見をすり合わせ、信頼関係を醸成
- 連携テーマと方向性：複数市町村に共通する6テーマについて、基本理念を踏まえた**具体・手触り感ある広域コンテンツ作り**に取り組む。

※ 進捗を見つつ途中参加するなど、参加・不参加は柔軟に変更可とする。

<p>①酒・グルメ（食） プレWGで先行検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参画市町村：田村、富岡、川内、大熊、葛尾、飯館 ✓ 酒やグルメの産品や料理、風光明媚な自然などを楽しむことに加え、生産元の「人」と語り、思いや生き様を体感する、酒・グルメ・人・自然を組み合わせた広域のツアー作り。 ✓ アウトドアやキャンプなどの自然との連携や、シェアや域内外の飲食店との連携、サステナブルな食などのブランディング 	<p>②スポーツ（サイクル） プレWGで先行検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参画市町村：いわき、広野、檜葉、葛尾、新地 ✓ 自然豊かな山間や適度なアップダウン、太平洋を見渡す沿岸、そして複合災害を学ぶ伝承館などを繋ぐ、復興により都度変わる「情景」を体感する、15市町村サイクルルート ✓ 復興を眺望できるビューポイントやおもてなし処の情報発信、地元サイクルガイドの養成 ✓ サイクル関連イベント、サイクルトレイン 	<p>③山・自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市町村：田村、川俣、檜葉、川内、葛尾、新地、飯館 ● 方向性：里山・百名山、ダム、渓谷、キャンプ場だけでなく、隠れた魅力を専門家とともに掘り起こし・磨き上げ。 	<p>④海・自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市町村：いわき、相馬、南相馬、檜葉、富岡、新地 ● 方向性：サーフィンやSUP、海水浴場や自然公園、アウトドア施設、現地グルメやアパレルとの連携など 	<p>⑤歴史・文化 ⑥芸術</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市町村：相馬、南相馬 ● 方向性：馬、土倉との連携 ● 市町村：広野、富岡 ● 方向性：市町村の持つ芸術・文化資源との連携
---	--	--	---	---

この地域「ならでは」の基本理念

- **推進体制の具体化**：各テーマの専門家や民間が参画する「**15市町村広域マーケティング機関**」(仮称)の立ち上げを支援（国・福島県、R4年6月公募～）。同機関が市町村と連携し、テーマ毎に広域コンテンツ作りを推進する。
- **サブテーマ**：①浜の駅・道の駅連携(スタンプラリー)、②企業連携(工場見学、タイアップ商品)、③宿泊施設の経営改善、④フィルムコミッション

VI. 市町村独自の取組（タテ）を推進するアクション

<p>①各市町村の担い手を増やす場づくり・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参画市町村も設計に参画。※プロジェクト創出の場も参考に具体設計。 	<p>②担い手をサポートする仕組みづくり・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資金面：誘客コンテンツ開発等支援事業(R4～、国・県) ● 取組面：サポートの仕組みを検討（R4～、経産省・県・参画市町村）、R5から支援組織を公募 	<p>③専門家とタッグを組んだ魅力の発掘・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一部市町村で専門家と先行連携（R4～） ● R5から専門家連携の仕組み具体化（経産省・県）。参画市町村がこれを活用（R5～）
---	---	--

VII. 市町村共通の基盤（デジタル化）に関するアクション

<p>④行政のデジタルトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル分野の専門家と連携した研修会を設計・運営（R4～、経産省） ● 参画市町村も参画し、知識を習得 	<p>⑤行政におけるデジタル化の実行とこれを支える伴走支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 伴走支援の仕組みを検討（R4～、経産省・県・関心市町村） ● R5から支援組織を公募（経産省・県）。参画市町村が活用。 	<p>⑥ 15市町村のデータ基盤の構築・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 具体仕組みを専門家と検討（R4～、経産省） ● R5から構築・運営事業者を公募（経産省・県）。参画市町村はデータ分析等で活用。
--	--	--

VIII. 付随なアクション

- ①交流人口拡大に活用できる立地補助金の適用関係の明確化・情報発信、②交流人口支援策の一元情報発信、③来訪者の消費を促す仕組みの改善と実行、④旅行会社へのツアー造成等の働きかけ、⑤スタートアップ向けツアー、⑥域外教育機関の呼び込み 等

※取組期間

2025年度までとするが、地域の実情や取組状況の進捗等を踏まえて、必要に応じて見直しを行う。